

## 新たな不登校が生じない取組 「未然防止」の取組

### 不登校が生じない魅力ある学校・学年・学級づくりの推進

#### 【取組1】(A中学校)

小中学校合同の体育的行事(スポーツフェスティバル)の実施

##### ① 児童・生徒主体の小中合同種目の考案

実行委員会が中心となって、児童・生徒全体の意見や思いをまとめて種目内容の検討を重ねた。中学生がリードしながら、学校行事の目標や所要時間、小中学生の体力の違いなどに配慮して種目を決定した。

##### ② 児童・生徒の実行委員会の会議時間の確保

本校は小中一貫校であるため、「時間」と「場所」の問題を効率化するために、「オンラインランチミーティング」を行った。1回の会議時間は短いミーティングだが、記録を丁寧にとっておくことで、効率化を実現できた。

##### ③ 児童・生徒の反応

「小中合同種目が面白かった」、「小中で表現運動を一緒にやりたい」などの肯定的な意見があった一方で、「出場種目が減ってしまった」、「待ち時間が長く退屈な時間が多い」などの課題点も少なくない反応であった。そのため、来年度の小中合同実行委員会では、「より良い種目設定」を検討することが考えられている。

小中合同実行委員会の様子



合同種目について話し合う様子

学校行事当日の様子



#### 【取組2】(B中学校)

○「生徒意識調査」に「安心して授業を受けることができますか。」という質問項目を設けて、調査を行った。

○「発言を否定されない。」「信頼できる友人がいる。」などの回答があった。

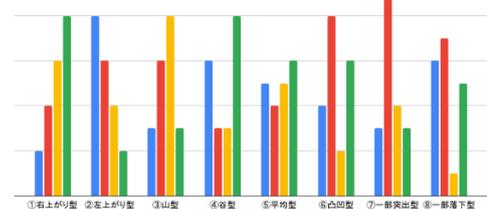
○生徒が安心を感じるクラス及び授業がどのようなものかを教員が理解し、学校の取組の改善のための検討ができた。

#### 【取組3】(C中学校)

生徒意識調査のフィードバックを分析し、資料を教員に共有した。グラフ型のパターンを作り、教員が事前に行った予想と生徒の回答結果の比較が行いやすい資料を作成した。

グラフ型の例

■ よく当てはまる ■ どちらかといえば当てはまる ■ どちらかといえば当てはまらない ■ 全然当てはまらない

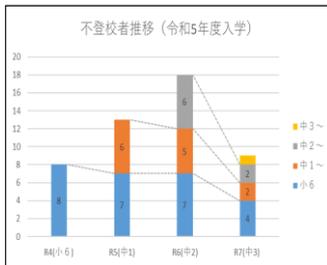


# 多様な学びの場を確保する取組

## 〔「早期支援」及び「長期化への対応」の取組〕の推進

### 支援会議（A中学校）

ある年度の入学生に着目して、不登校生徒数の推移を分析し、支援会議で傾向や課題を共有した。



不登校生徒の状況などを共有し、支援の充実を図っている。

### アウトリーチによる支援（D中学校）

「外部連携機関（子育て支援施設、給食センター、登校支援教室など）へ訪問」  
○生徒との関係を構築するため、生徒の情報を確実に把握し、コミュニケーションを図った。  
○外部機関の職員と連携し、生徒の情報を共有した。

### 校内別室における支援（A中学校）

#### 「校内別室の環境整備」

○生徒のニーズへの対応

→不登校対応巡回教員が、校内別室を利用する生徒と一緒に、校内別室で「どんな過ごし方をしたいか」や「より過ごしやすいするためにはどうすべきか」を相談しながら支援した。

○コミュニケーションルームの設置

→「静かに学習に取り組みたい生徒」と「コミュニケーション（会話やゲーム）をしたい生徒」をお互いに配慮して分けた。

コミュニケーション  
ルーム



### デジタル機器を活用した支援（A中学校）

#### 「授業支援ツールの活用」

- 各クラス常時接続して配信している。
- 資料は事前に教員から生徒に渡した。
- 字幕機能を使った視覚的な支援をした。



授業を受けている様子

### 関係機関との連携（D中学校）

○地域の乗馬クラブと連携し、馬と触れ合う体験活動を実施した。  
○月1回実施し、継続的に体験できる機会を設定した。  
体験活動で、キャリア意識の向上を図った。



馬の世話をしている様子

## 成果

- 不登校（傾向）の生徒に対して、教育機会を確保し、学習を充実させる取組ができた。
- 不登校対応の情報提供を継続することで、教職員の理解も深まった。

## 課題

- 新たに不登校となる生徒が多い学年に対する支援方法を検討する。
- 研究や現状分析を続け、より効果的な発信ができるようにする。